

(4) 学校教育学部

② 教務関係

教務委員会における、運営・活動の状況や優れた点及び今後の検討課題等については下記のとおりである。

ア 運営・活動の状況

i) 委員会等の開催状況

令和2年度においては、教務委員会を16回開催した。

ii) 審議された主な事項

学部の教務に関する主な審議事項は、以下のとおりである。

- 1) 令和2年度卒業判定
- 2) 令和2年度転専修・コース判定及び専修・コース分け
- 3) 令和2年度学部1年次生及び3年次生の進級判定
- 4) 令和2年度前・後期学部再試験の実施・評価
- 5) 令和2年度科目等履修生、特別聴講学生の受入れ等
- 6) 令和2年度学年暦
- 7) 令和2年度開設授業科目・授業時間割
- 8) 令和2年度非常勤講師担当授業科目
- 9) 令和3年度ティーチング・アシスタント等の実施計画
- 10) 令和3年度授業時間割の編成方針の整備
- 11) 令和3年度副専攻プログラム受講者の選考
- 12) 令和4年度大学院改革における学部・大学院接続推進（大学院授業科目早期履修）プログラムの導入
- 13) 大型提示装置システム等整備検討ワーキンググループの設置
- 14) 上越教育大学における学生の通称名等の取扱い
- 15) 教務関係学内規則の制定・改廃
- 16) 令和2年度年度計画及び自己点検・評価
- 17) オンライン会議システム「Zoom」に係る運用

iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

令和元年度からの大学改革に基づく学部の教育課程全般をはじめ、副専攻プログラム（小学校英語副専攻プログラム及び小学校プログラミング・テクノロジー副専攻プログラム）の運用を行った。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策による授業運営方針を検討し、円滑な授業実施のための整備を行った。

あわせて、平成29年3月22日（水）にカリキュラム企画運営会議で決定した「アクティブ・ラーニングを取り入れるための方針」に基づき、人文棟中小講義室のAV機器のデジタル化等、講義室の教育環境を引き続き整備した。

イ 優れた点及び今後の検討課題等

i) 優れた点

令和元年度からの大学改革に基づく学部の教育課程全般をはじめ、副専攻プログラム（小学校英

語副専攻プログラム及び小学校プログラミング・テクノロジー副専攻プログラム)の運用を行った。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策による授業運営方針に基づく授業実施のほか、オンライン授業への対応として補正予算による設備充実、ティーチング・アシスタントによる遠隔授業支援等を行った。

ii) 今後の検討課題

- ・アクティブ・ラーニングに対応した講義室の教育環境整備
- ・令和4（2022）年度大学改革に伴う、教務関連事項の対応
- ・高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の実施（遠隔授業への対応）